



京都 YWCA

9 2018

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。



絵本から広がる子育て支援——親・子育て支援活動委員会の活動 独りで子育てに悩むあなたへ届け



大好きな絵本を繰り返し読んでもらったこと、あるいは子どもが眠る前に絵本を読んであげたひと時が、心温まる記憶として残っていませんか？

親子ライブラリーは子どもをとりまくあらゆる人に、絵本を通して心豊かな時間を届けることをめざしています。月に1回、京都 YWCA 館内で絵本の読み語りや貸出を行い、「親と子のリズム遊び」の参加者や、保育つき日本語教室「洛楽」の受講者が立ち寄っていかれます。また、毎月ふれあいの居場所「うららかふえ」で「絵本かふえ」を開催しています。テーマに沿った絵本をディスプレイしてランチを提供し、食後にスタッフが絵本の読み語りを行っています。定期的に来館される親子だけではなく、多くの人に絵本の楽しさを知ってもらおうと始めた企画です。日本語を母語としない子たちにも喜んでもらえる本を披露したり、高齢者住宅サラームに暮らす人が読み語りを聞いておられたり、自立援助ホーム利用者が配膳を手伝ってくれたり、「多世代多文化ふれあいコミュニティづくり」を掲げる YWCAらしい光景が見られます。

地域に広がる活動として、京都市中央図書館で毎年出張お話をしたり、京都第二赤十字病院を毎月訪問して小児科病棟で読み語りも行っています。近年は保育園や児童館などが担う地域子育て支援ステーションのプログラムとしてお話を依頼されることも増えました。

「孤育て」を防ぐ居場所

核家族やひとり親世帯の増加、地域社会の脆弱化によって、独りで子育てに悩む人も多く、子どもの虐待や貧困が社会問題化しています。京都 YWCA は女性と子どもをエンパワーする NGO として、こうした社会問題を改善することをミッションのひとつとしています。私たちに今すぐできることは、子育てが孤独な「孤育て」とならないように、居場所を提供することだと考えています。親子ライブラリーや絵本かふえは「絵本を読んでもじっとしていない」「野菜嫌いでも全く食べない」といった日常の悩みを受けとめたり、親同士が共感したりする場でもあります。

親・子育て支援活動委員会では他に「親と子のリズム遊び」や「マクロビオティック料理講習」などを実施して、親子にセーフ・スペース（安心して過ごせる場）の提供を試みています。今年度は発達に心配のある子どもを育てる親の支援に重点を置き、講演会の開催や「親のだんわしつ」（発達に心配のある子どもをもつ親が気軽に思いを分かち合える場）の実施を計画しています。

「孤育て」に悩む人に私たちの取り組みを知らせて参加してもらうのは簡単ではありません。誰でも参加できるイベント「あきまつり」を行ったり、SNS を使って情報提供を行うほか、出張お話会のようにこちらから出向いていくなどして、地域の子育て支援拠点となり、親子にとってのセーフ・スペースになることをめざしたいと思います。

(平野富希)



ある日の
絵本カフェの光景



トーハン
ブックフェアにて

開催日程（お気軽に参加ください）

親子ライブラリー	9/ 6, 10/ 4, 11/ 1, 12/ 6, 1/31, 2/ 7, 3/ 7 (いずれも木曜日)
絵本かふえ	9/20, 10/18, 11/15, 12/20, 1/17, 2/21, 3/28 (いずれも木曜日)
あきまつり	11/11 (日)
発達障がいを考えるワークショップ	10/27 (土)

他多数

映画から見る戦争の「記憶の継承」

— 「ほーぼのぼの会」 —

ほーぼのぼの会では今年、「記憶の継承」というテーマのもとに、メンバーがそれぞれ報告をする勉強会を行なっています。ヒロシマ・ナガサキの被爆者の記憶についての勉強会を始めとして、今回私が担当した BC 級戦犯の記憶など、特に戦争にかかわる記憶を扱ってきました。

戦争体験の語り部がいなくなりつつある現在、「記憶の継承」が重要な課題であるということは、周知の事実でしょう。ですが、私は「記憶の継承」だけではなく継承され続けている記憶は変化していくということと、継承されない記憶があるのだということに着目し、7月14日、「映画から見る1950年代の戦犯の記憶」と題して報告をしました。

1953年に製作された『壁あつき部屋』、1958年はドラマで、また1959年には映画で放映された『私は貝になりたい』から、50年代当時に描かれた戦犯像を比較してみました。この二作品は同じ戦犯を描いたにもかかわらず、正反対のものであったと言えます。『私は貝になりたい』は、戦犯を戦争の「犠牲者」として、『壁あつき部屋』は「犠牲者」でありながら「加害者」として描いていました。『壁あつき部屋』は、戦犯たちの手記をもとに、よりリアルに戦

犯の問題を描こうとしていた作品だったのに対して、『私は貝になりたい』は民衆の戦争に対する憤りを描くことを目的としていたことが、こうした違いとして出たのです。あまり有名にはならなかった『壁あつき部屋』に対して、『私は貝になりたい』が広く受け入れられたのは、当時の社会的な風潮があったと言えるでしょう。

また、今回の報告では、2000年代にリメイクされた2つの映画『私は貝になりたい』と、『明日への遺言』も比較した上で、50年代の作品の参考にされた戦犯たちの手記にも目を配ってみました。それにより、戦犯たちの覚えていた罪責感、現在に至るまで共有されておらず、戦犯裁判への批判や「戦犯＝犠牲者」といった図式しか継承されていないことが分かりました。

今回は、戦犯の加害の記憶が継承されていないという問題を明らかにしましたが、今後は50年代の二作品で描かれた罪責感の違いについて深めていきたいと考えています。ご興味がある方は、動画の配信元をお教えいたしますので、京都YWCAまでお問い合わせ頂きますと嬉しく思います。
(片岡英子)



「ひろしまを考える旅2018」に参加して



1971年から始まった日本YWCA主催のひろしまを考える旅。今年は8月9日～11日までの3日間開催されました。参加者は10代から70代。韓国、中国、ホンジュラス、世界YWCAのメンバーも加わり、60名が広島文化交流会館に集まりました。

開会では、軍都としての広島、核兵器の視点でのヒロシマ、現在の広島と3つの顔。そのことから未来のひろしまを考えるという旅の目的が示されました。この目的に沿って4回のワークショップ、碑めぐり、平和記念資料館の見学、被爆証言を聞くプログラムと、4つのコースに分かれて広島市内を歩き、ひろしまについて学ぶフィールドワークがありました。

平和記念資料館は本館が耐震工事中で東館の見学でしたが、ガイドの方の「展示物は資料というが単なる資料ではなく家族にとっては遺品だ」との言葉は、胸に迫るものがありました。

被爆証言は1927生まれで当時中学生だった男性から壮絶な経験を聞き、自分と同じ経験をしてほしくないとの強い気持ちを感じました。事実を知ること、知って判断する力をつけること、無知では平和をつくりだすことができないとの若者へのメッセージが心に響きました。

フィールドワークは事前に選んだコースを回ります。私は広島市の作家、原民喜の「夏の花」という作品に書き残された原爆被災時の足取りを、原民喜研究家の竹原洋子さんのガイドでたどりましました。竹原さんの語りをききながら、「この有様を伝えることが天命だ」との思いに突き動かされメモをとり小説を書いた原民喜に思いをはせました。

韓国や中国では、日本の加害はどのように伝えられているのでしょうか？中国は南京虐殺、韓国では慰安婦問題です。それぞれのYWCAのメンバーからの話は、日本が加害を事実として認めていないことを突きつけられ、認めて謝罪しない限り中国、韓国の戦争は終わらないことを知りました。

それぞれのプログラムのたびに学んだ事、考えた事を自分の言葉で話す時がありました。被爆証言を聞いて、今まで学校で学んだ事とは違う事に腹立たしさを覚え、事実を知ることの大切さを痛感した中学生。争いや差別はなくなりますが、止める人がいないという状態も平和とは言えない。相手への理解の過程が平和を求める道だと話した高校生がいました。過去を知り、現在を生き、未来を見つめ、平和を創る者としての道を歩む事ができるよう願って鶴を折りました。この旅で得たことを生かして小さな努力を積み重ね、平和を願うひとりずつの思いを集約すれば未来が明るくなることを信じます。
(横川宏美)





中学生の「チャレンジ体験」として、 うららかふえで居場所づくりを体験していただきました



2018年6月12日～15日の4日間、うららかふえの居場所づくり事業に2名の中学生、SさんとHさんのチャレンジ体験者を受け入れました。これは京都市教育委員会の「生き方探究・チャレンジ体験」に協力したものです。

お二人は京都市内の公立中学校の2年生。調理や接客に若いパワーを発揮。どんなに忙しくてもいつも笑顔を決して、京都YWCAが取り組む多世代・多文化の居場所づくり事業のミッションをしっかり体現し、また毎日作業後はキッチンと振り返りノートに記入していました。これから社会へ踏み出す若い二人に、「ボランティアとは何か」や、YWCAのミッションが正しく伝わっているかと責任を感じ続けた4日間でしたが、二人はさわやかな青い風を残して帰って行きました。また遊びにきてくださいね。

かふえボランティアのみなさんとSさんとHさんとの間で交わされたメッセージを、以下にご紹介します。お二人の活躍の様子が手に取るようにわかります。

かふえボランティアより

・テキパキと頼もしく働いて下さってありがとう!! 真剣な姿勢に、こちらがいろいろ教わった気がします。

・笑顔がとてもカワイイ二人と一緒に過ごせてとても楽しい二日間でした。

・素敵な笑顔ありがとう。一緒に働けて幸せでした。

Hさんより

皆さんがとても優しく接して下さったおかげで、初めはとてもきんちょうしましたがすぐ慣れることができました。

Sさんより

辛い事や疲れた事もあったけれど、まわりのボランティアの方々が、話しかけてくださったり、いろいろな事を教えてくださったため、乗り越える事ができたと、楽しく仕事をすることができました。

(平城智恵子)



ランチの準備作業



作業終了後は振り返りノートを記入

京都YWCAの事業をご支援ください！ ～地域の居場所「セーフ・スペース」づくりに向けて～



京都YWCAでは、子どもから高齢者まで、さらには多様な文化背景の人々が交流・協働する「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を推進しています。具体的には、ふれあいの居場所うららかふえ、高齢女性のための住宅サラーム、社会的養護を必要とする若い女性のための自立援助ホーム カルーナなどの事業や、女性、子ども、外国籍住民を支援するさまざまな事業に取り組んでいます。これらを通して、誰もが安心して自分らしくいられる場所「セーフ・スペース (safe space)」を地域社会に築いていくことを目指しています。

その一環として、未来を担う子どもたち一人ひとりに寄り添い、その家族を支えるための環境を整えていく取り組みを始めています。本年度、この取り組みを進めるために以下の募金を開始しました。

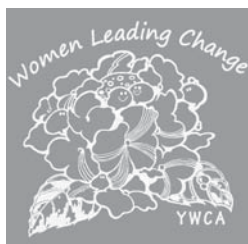
京都YWCA 未来応援募金 (目標 240万)

～多世代・多文化および女性・子どものエンパワメントのために～

また、各事業・活動を個別に支えていただく指定募金、法人運営を支えていただく一般募金や賛助員募集も行っています (ご寄付は一般募金と賛助費を除き、税制優遇措置を受けることができます)。

ご寄付の方法

京都YWCA 事務所にてお支払いいただくか、郵便局よりお振込ください (事務所に郵便振込用紙をご用意しています)。ご支援の分野をご指定下さい。詳細は事務所までお尋ねください。



郵便振替 0180-9-1566

加入者名 公益財団法人京都YWCA

賛助員大募集!

継続的に京都YWCAを支えていただく賛助員を募集しています。

賛助員になっていただくと、京都YWCAのニュースレター (隔月)、イベントなどのご案内、事業報告書をお送りします。また、クリスマスカード、お誕生日カードをお送りします。

賛助費 (年額) : 個人 5,000円もしくは10,000円 団体 10,000円

今後のプログラム

◎エンディングノートから学ぶ

- 日 時：2018年9月3日(月) 13:30～15:00
 ■場 所：京都YWCA
 ■内 容：人生のこれからを考えると、何を備えておけばよいか、一緒に学びましょう。
 ■講 師：内山貴美子さん(京都SKYセンター事務局長兼高齢者情報相談センター所長)
 ■参加費：無料
 ■定 員：20名
 ■申 込：要

◎第2回Yわい亭チャリティ寄席
桂九雀

- 日 時：2018年10月6日(土)
13:30～15:30(13:00開場)
 ■場 所：京都YWCAホール
 ■演 目：当日のお楽しみ！
 ■共 演：桂九ノ一
 ■入場料：2,500円(一律)
 ■対 象：どなたでもどうぞ
 ■申 込：要 京都YWCAまで(チケット販売中)

◎親子ワークショップ

- 日 時：2018年10月27日(土)
10:30～12:00
 ■場 所：京都YWCAホール
 ■内 容：発達障がいを持つ子どもとのかかわり方
 ■講 師：吉田直樹さん(京都市児童福祉センター)
 ■参加費：1,000円
 ■定 員：30名
 ■申 込：要 京都YWCAまで

◎あきまつり

- 日 時：2018年11月11日(日)
13:30～16:30(13:00開場)
 ■場 所：京都YWCA
 ■内 容：ライブコンサート、人形劇など
 ■参加費：親子(大人1人+子ども1人)1,000円、
大人1人700円、子ども1人500円、
1歳未満無料、在京避難者ご招待
 ■申 込：不要

ご寄付ありがとうございました。

2018年6月1日から7月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

鍛冶富美子、山本知恵、中西和江、
嵯峨根梨香、筒井奈津子、
上村愈巳子

各指定寄付

*会館改修、メンテナンス募金
有田孝子、諫早道子

*未来応援募金

浅野献一、林律、上村愈巳子、
清水義、手島千景

*親・子育て支援活動委員会

京都家庭文庫地域文庫連絡会、
親子ライブラリー有志

*多文化共生委員会

委員会へ
安藤いづみ

APTへ

西原美那子、北垣由民子、
神門佐千子、北村保子、青木信雄、
田中君枝、
日本キリスト教団洛陽教会、
(株)ピーコス日韓ユース交流プログラムへ
張善花、池上信子、花岡正義、
中川美佳子、井上依子

*平和・環境委員会

委員会へ
諫早道子、宮川信子、
平和・環境委員会有志東日本大震災被災者支援プロ
ジェクトへ
あじさいバザール来場者、
出店者

*ファンドレイジング委員会

あじさいバザール
(株)一粒社ヴォーリス建築設計事
務所、
山本順三、(株)ティエムエス、
山田松香木店

*うららかふえ

宮武美知子

*自立援助ホーム「カルーナ」
(教育奨励金)西村由里、近藤八津子、吉田紀子、
小泉小枝、長手祐子、富田恵津子、
国際ソロプチミスト北山*自立援助ホーム「カルーナ」
後援会費・寄附手島千景、竹之下雅代、西村由里、
神門佐千子、大島博子、篠田茜、
近藤八津子、木村和子、岩崎明生、
近野玲子、横川幸治、筒井奈都子、
弘中奈都子、堀部碧、山上義人、
亀田和代、中野加奈子、伊部恭子、
山本知恵、井上依子、
学校法人蓮光学園バドマ幼稚園

*賛助費

岡昭男、小室京子、片桐ユズル、
中村美智子、半田淳子、野崎泰子、
浅野久子、中川愛子、井原圭子、
久保美恵子、白根睦久、福嶋節子、
永井靖二、出店都、北村保子

7・8月/理事会報告

- 京都府の若者就職支援等推進事業を2018年度も受託。
- 真如苑から自立援助ホーム「カルーナ」に助成金をいただく。カルーナ利用者、退所者向け「自律」支援プログラムおよび神戸YMCA余島野外活動センターでのOne Camp(7/27-31)参加に活用。
- 「会員のリーダーシップ養成」(日本YWCA助成ローカルアクション)を目的に運営委員会に3つのチーム(スキルアップ、組織理解促進、ユース育成)を編成。
- 上記の一環として、中高YWCAとの定期的なコミュニケーション確立をめざし、平安女学院中高YWCAが来館、同志社女子中高YWCAを訪問。
- 8月17～20日：福島からの子どもたちも参加して、日韓ユースプログラムを実施。
- 8月20～22日：小学生対象のキッズディアアウトプログラム「ガジュマルの樹」を実施。

KYOTO YWCA No.546

2018年9月号(9月1日発行)

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都YWCA

〒602-8019 京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財)京都YWCA

定 価：奇数月1日発行(1部50円)